



第166号

まつの 社協だより

令和5年4月発行

編集・発行
社会福祉法人
松野町社会福祉協議会

〒798-2101
北宇和郡松野町大字松丸1661-13
TEL (0895) 42-0794
FAX (0895) 20-5311



地域の魅力再発見

松野中学校2年生の皆さんと富岡地区住民の皆さんが、交流しながら、富岡の自然と歴史をたずねました。

照源寺や河内神社、樹齢350年の大杉などをめぐり、地域のスペシャリストから説明を受けました。富岡は、土佐との交流の最前線という重要な存在だったことや、先人が富岡地区の発展のために汗したことを聞き、郷土愛を育みました。

松野社協の ケアマネだより ケアマネージャー 在宅介護サービス 紹介です♪ 募集中!

居宅介護支援事業所

詳しくはHPか松野社協まで♪

●ケアマネジャー5名で、要介護認定の方の介護保険サービス計画作成など、在宅介護サービスの相談・調整を行っています。

訪問型サービスA

●要支援認定の方のご自宅に訪問し、生活支援（ゴミ出し、掃除、買い物、調理など）を行っています。電球交換や精米、灯油入れなど小さなお困りごともお手伝い。利用料金は訪問（1時間以内）1回につき200円です。現在、訪問スタッフ3名で対応しております。

サービスご希望の方は、松野町社会福祉協議会または松野町地域包括支援センターにご連絡ください。



「2023年トルコ・シリア地震救援金」受付開始

令和5年2月6日トルコ南東部のシリアとの国境付近を震源とする地震とその余震により大きな被害が出ております。

この災害により被災された方々を救援することを目的に救援金の受付と募金箱を設置いたしました。お預かりした救援金は日本赤十字社が行う被災者への支援活動を展開するために活用されます。

皆さまのあたたかいご支援をよろしくお願いいたします。

受付
期間

令和5年5月19日(金)まで



募金箱設置場所

役場・中央診療所・社会福祉協議会・吉野生支所
ぽっぽ温泉・虹の森公園

※詳しくは役場総務課（TEL 42-1111）社会福祉協議会（TEL 42-0794）へ

令和4年度「松野町ペタンク大会」開催

3月9日（木）、町老連主催のペタンク大会が3年ぶりに開催されました。当日は春本番の陽気の中、久しぶりのペタンクを楽しむ笑顔の花が満開。今回は半日開催のため、全チームの得失点差で総合順位が決められました。大会を制したのは蕨生寿会Cチームの皆さま。優勝おめでとうございます！



つながいを もっと豊かに

地域コミュニティのデジタル化支援のため、スマホ講座が4回シリーズで開催され、福祉ボランティアさんが参加されました。

楽天シニアの講師の方に、ラインやズームなどの使い方を教わり、実際にスマホを使ってオンラインでの交流をしてみました。

また、デジタル化が進む中で、必要な情報入手したり、スマホを活用してポイントをためたり、生活に役立つ活用方法も教わりました。

参加されたボランティアさんからは、「ラインを



活用して、活動日の日程調整にチャレンジしたい」とか、「講座を受講して、できることが増えて嬉しい」という感想がありました。

たくさん活用して、楽しみが増えるといいですね。



「いざ」に備える防災体験

～ 日本赤十字社愛媛県支部倉庫見学会 ～



松野町日赤奉仕団と福祉ボランティアグループのみなさんが、日本赤十字社愛媛県支部（松山市）で、災害時の避難所での生活をテーマに研修を行いました。

日赤職員から、避難所での生活場面における様々な影響、からだへの影響、生活不活発病・感染症・脱水など

気を付けたい病気についてお話をうかがいました。

また、段ボールベッドや災害トイレを組み立てたり、触れる体験をし、実際に避難所生活の体験訓練をして



おくことの重要性を感じていました。

参加者の皆さんからは「楽しみながら今回の経験を活かした活動ができればいいね」と意欲的な声が上がっていました。

「いざ」という時に慌てないために、地域ぐるみで災害時の役割や備え、避難所での生活を考えることの大切さを感じました。



「つながい」はコロナに負けない

地区のコトについて、多世代で意見交換しました！



松野町社会福祉協議会では、「私たちの望む暮らし」を実現するため、平成29年度から、住民の皆さんと一緒に「地域福祉活動計画」を策定し、毎年推進委員会を開催しています。

今年度は、各地区の推進委員さんに加えて、松野中学校生徒会の皆さんにも参加してもらい、多世代で地域のことを考えました。

まず、中学生の皆さんから、地域の人たちと交流しながら地域を活性化しようと取り組まれている「まちおこしプロジェクト」の活動内容や、目指していることについて報告してもらいました。

その後、地区ごとに、「こんな地区にしたい」という思いを共有し、暮らしの中での人とのつながりや楽しみ、支え合いや見守り活動について意見交換し、これからの活動を考えました。

「やってみたい！」ことを対話しながら、お互いの思いを知ることで、つながることの意味と大切さを感じていました。色んな世代の目線で地域を捉えることができ、今後の取り組みの幅が広がりました。

